

雑草におけるシルバーリーフコナジラミの発消長

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス TYLCV を媒介するシルバーリーフコナジラミは、野外の雑草において、成虫は5月から確認され、9～10月に密度が高まる。また、10月には蛹の密度も高まる。野外の雑草は、本種の生息、増殖源となる可能性がある。

農業研究センター 農産園芸研究所 病虫部(担当者：古家 忠)

研究のねらい

抑制および促成栽培トマトにおいて被害が問題となっているトマト黄化葉巻病の病原ウイルス TYLCV は、シルバーリーフコナジラミのみが媒介する。そのため、本病の感染防止のためにはシルバーリーフコナジラミの防除が重要であるが、一方では受粉昆虫や天敵利用と調和した防除体系の確立も求められている。そこで、シルバーリーフコナジラミの発消長に基づいた TYLCV 感染防止技術を確立するため、野外の雑草における本種の発消長を解明する。

研究の成果

1. 調査を行った 17 種の雑草のうち、8 種の雑草でシルバーリーフコナジラミ成虫の生息が確認された。この内、ノゲシ、アキノノゲシ、セイタカアワダチソウおよびクズでは蛹の寄生が確認されたことから、これらの雑草はシルバーリーフコナジラミの増殖源となると考えられた(表 1)。
2. シルバーリーフコナジラミ成虫は 5 月から確認され、9～10月に密度が最も高くなった。また、蛹は 10 月に最も密度が高くなった(図 1)。
3. 同一地点でのシルバーリーフコナジラミの発消長は、雑草の種類に関係なく、同様の傾向を示した(図 1)。

普及上の留意点

1. 野外でのシルバーリーフコナジラミの密度を抑えるために、生息、増殖源と考えられる雑草は本種の密度が高まる前に除去する。
2. 除草除去だけでは TYLCV の感染を防止できない。ハウスの防虫ネット被覆や薬剤散布によるシルバーリーフコナジラミの防除をあわせて行う。
3. 雑草ではオンシツコナジラミの成虫および蛹も見つかるので、調査の際には見分けることが必要である。

表1 雑草におけるシルバーリーフコナジラミの生息状況（平成13～14年度）

雑草名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ノゲシ	-	-	×	-	-	-	-	-	×	×	×	×
エノキグサ	-	-	×	-	-	-	×	-	-	-	-	-
セイタカアワダチソウ	×	-	×	-	-	-	-	-	×	×	×	×
クズ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アキノノゲシ	-	-	×	-	-	-	-	-	×	×	×	×
オニタビラコ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ホトケノザ	-	-	-	-	-	-	-	-	×	-	-	-
マルバルコウ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤブマオ	-	-	-	-	×	-	-	-	×	-	-	-
ツユクサ	-	-	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-
ギシギシ	-	-	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-
オオアレチノギク	-	-	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-
ヒメムカシヨモギ	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-	-	-
ホソバアキノノゲシ	-	-	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-
チチコグサモドキ	-	-	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キュウリグサ	-	-	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イヌホオズキ	-	-	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-

○：成虫および蛹確認、●：成虫のみ確認、○：蛹のみ確認、×：未確認、-：未調査
 調査地点：熊本市海路口町、熊本市沖新町（H14年度のみ）、三角町大口（H13年度のみ）、八代市場

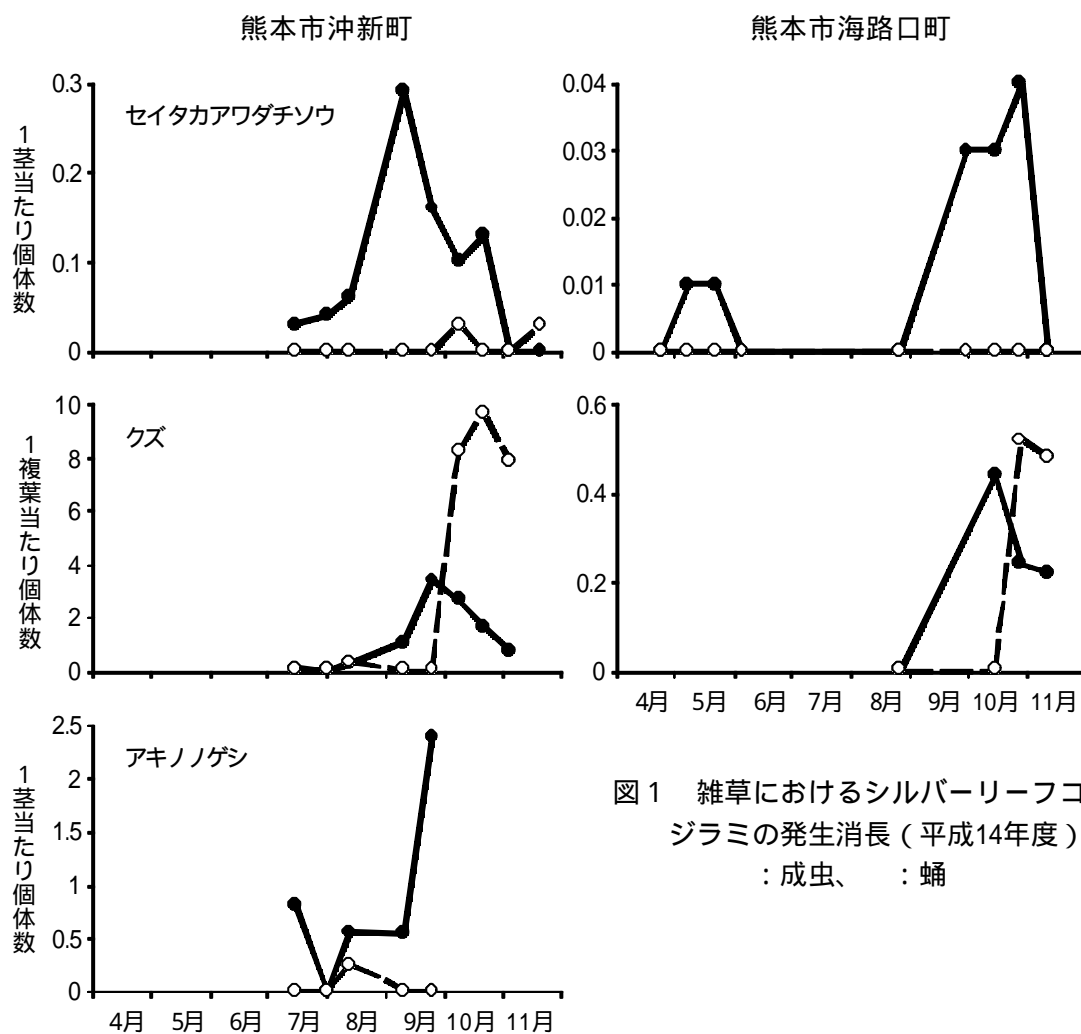


図1 雑草におけるシルバーリーフコナジラミの発生活消長（平成14年度）
 ●：成虫、○：蛹